

家族愛の作文 コンクール

高知県モラロジー協会主催の「家族愛の作文コンクール」に、今年も町内の児童生徒が応募しました。

県内より数多くの応募があった中、高知県知事賞に中央小学校二年生の小沢哲平さんが、「津野町長賞」に中央小学校三年生の犬飼陽翔さんが、また「津野町教育長賞」に葉山小学校六年生の小川虎太さんが選ばれました。

その他、入選や佳作にも多くの児童生徒の作品が選ばれています。また、学校表彰では、最優秀賞に中央小学校、努力奨励賞に精華小学校と葉山中学校が選ばれました。家族に心を寄せ、家族の一員として感じた気持ちを素直につづった、すばらしい代表作をご覧ください。



高知県知事賞

おかあさんのおなかに

赤ちゃんがいるよ

中央小学校二年

小沢 哲平

ぼくのおかあさんのおなかに、赤ちゃんがいます。おかあさんがおもしろいものをもっていたので、「だいじょうぶ。」とききました。

おかあさんは、「うん。だいじょうぶ。」と云ってくれました。

でも、おかあさんのおなかに赤ちゃんがいるので、ぼくは、ふとんしきをすることにしました。おかあさんはきつといい気もちだと思えます。これからもお手つだいをしたいです。しっかりがんばっていきたいです。ぼくのかぞくは、赤ちゃんが生まれたら六人になります。おとうとでもいもうとでもいいです。ぼくは、今、名前を考えています。

津野町長賞

強い男になる

中央小学校三年

犬飼 陽翔

二月にばあばが天国にいきました。ばあばは、がんという病気ですごくいしんどそうでした。だけどぼくの前では、にこにこしてお話してくれました。

ばあばが元気だったとき、いっしょに畑に行ったり、ぼくがいないときすごくやさしくしてくれて、ぼくは、ばあばのことが大スキでした。

ばあばがびょう気と知った時、すごくかなしくてぜったいなおってほしいと思えました。ただどどん話せなくなりました。でもさいごにこう言いました。

「はると、強い男になれ。」だからぼくはだれでもまもれる人になりたいです。

津野町教育長賞

親ばかりけど

葉山小学校六年

小川 虎太

お母さんは、ぼくはいらないのに大量に服を買ってきたりする、筋金入りの親ばかりです。修学旅行の時も出発まぎわまでぼくのでにすがって、

「私もついて行きたい。」とさけぶお母さん。やめてほしいとかははずかしいなど思っているのに全然気づかないお母さん。

でも、修学旅行で宿に着いておふろに行った時、着がえのふくろを開けたらメッセージが入っていました。二日目の着がえのふくろにも入っていました。それがうれしかったから、親ばかりもいいなと思えました。旅行から帰ってお母さんはあいかわらず親ばかりけど、ぼくは何も言わなくなりました。ありがとう、お母さん。